



京都府ナースセンター通信 2025年 10月号

ふれあい看護体験について

ふれあい看護体験は、毎年「看護の日」の事業として、中学生や高校生の夏期休暇中に開催しています。医療機関関係者および患者さんとのふれあいを通して、看護することや人の命についての理解と関心を高める機会を提供し、看護の道へ進むきっかけや目標につながることを願って実施しています。

今年度は7月19日～8月13日の期間に、中学生4人・高校生301人が、86病院・9訪問看護ステーションで看護を体験しました。各施設が工夫を凝らしたプログラムを設定し、体験者を迎えています。

点滴準備の体験

食事介助体験

心臓マッサージ体験



車いすと歩行器体験

利用者さんとの会話

PPE 着脱体験

参加した人の **99%の人が**「有意義な体験になった」、**93%の人が**「看護職になりたいと思う」という結果でした。

【体験者の感想】

- 普通に生活していたら体験できないような貴重なものばかり見させていただき、参加できてよかった。看護師の方が皆さん優しくあたたかくて憧れた。絶対看護師になりたい。
- 利用者さんそれぞれの対応や特性の理解などを看護師さんの中で共有した上での訪問看護ということを知り、医療は様々な機関の連携・協力で成り立っていると再実感した。また病棟と異なる医療のリアルを体験することができ、とても有意義だった。
- 看護師という仕事について沢山のことが知れた。看護師は忙しいというイメージがあったが、やりがいのある仕事だと思った。たくさんの人と関わることができる仕事で、とても素敵だと思った。

体験を通して、看護のやりがいや大変さを肌で感じてもらえたようでした。

暑期中、頑張って体験された皆様、お疲れ様でした。

ぜひ一緒に看護の道を歩みましょう。

温かく迎えていただいた施設の皆様、ありがとうございました。

来年度もよろしくお願いします。

